

パウロ・ローシャ監督特集

# 新しい人生

Mudar de Vida

監督・脚本/パウロ・ローシャ 1966年度ヴェネチア国際映画祭招待作品

# 青い年

Os Verdes Anos

監督・脚本/パウロ・ローシャ 1964年度ロカルノ国際映画祭新人監督賞  
アカブルコ国際映画祭特別賞



現代ポルトガル映画の気鋭

パウロ・ローシャの二大名作一挙公開!

[ポルトガル映画初公開]



3月22日(土)より

エキブ・ド・シネマ

ロードショー

●地下鉄(都営三田線)神保町・下車1分 国電(中央線)水道橋駅またはお茶の水駅・下車7分 ●神保町交差点

岩波ホール (262) 5252

お得な特別鑑賞券 880円

(当日は一般・学生とも1,500円)

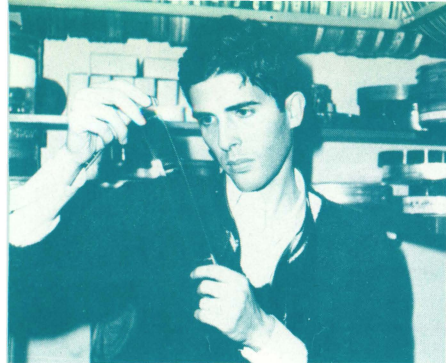
音協会員に限り発売中!

平日(月~金)	1:30	6:30
土・日・祝	12:30	4:30

上映時間

■毎回入れ替え制・自由定員制

4月6日回休館



「新しい人生」編集のP・ローシャ監督

〈解説〉 この2本の映画は日本で初めて公開されるポルトガル映画であり、現代ポルトガル映画界を代表するパウロ・ローシャ監督(1935年生まれ)の作品である。

ローシャ監督の第1作「青い年」(1964年)は1964年度ロカールノ国際映画祭新人監督賞、アカブルコ国際映画祭特別賞などを受賞した。この作品のポルトガル映画界に及ぼした影響は大きく、「青い年」によりポルトガルのヌーヴェル・ヴァーグが誕生した。

「青い年」は田舎から首都リスボンに出てきた青年の初恋を通して、ポルトガルの社会の貧しさ、青年の不満などを、そのみずみずしい映像感覚と繊細な心理描写で、ていねいに描き込んだ青春映画である。

その成功に続いて作られた第2作「新しい人生」(1966年)は、オパールの海辺の貧しい漁村を舞台として、高雅な気品すら感じる漁民の生きる姿と植民地戦争の暗い影を描いた実に堂々たるリアリズム映画である。

漁民達の原始的な方法による鰯漁、手漕ぎの漁船、牛を使つての網の引き上げなど、この映画のもつ記録的な面も素晴らしい。

この作品は内外において好意的に迎えられたが、1966年度ヴェネチア国際映画祭で招待作品として上映された時、フランスの高名な映画史家ジョルジュ・サドゥール氏はレトル・フランセーズ紙の評で、この作品を同映画祭の上映作品のベスト・ファイブに選んだ。またミシェル・クルノー氏は、この作品の記録的な部分はソビエト映画無声時代の傑作に匹敵するとヌーヴェル・オブセルパトル紙に書いている。

なお、両作品とも、音楽はポルトガルギターの第一人者カルロス・パレーダスの作曲、演奏による。

「新しい人生」の主演のオパールの漁夫を見事に演じたジェラルド・デル・レイはブラジルの俳優である。ローシャ監督は親友のブラジルの監督グラウベル・ローシャ作品の主演俳優であるレイを主演に選び成功した。ジュリア役のマリア・パローゾはポルトガルの高名な舞台女優であるが、現在、ポルトガルの社会党書記長、元首相マリオ・ソアレス氏の夫人でもある。アルベルチナ役のイザベル・ルートは「青い年」で映画俳優としてデビューし、「新しい人生」の後、イタリア映画界でも活躍している。また「青い年」の主演でデビューしたルイ・ゴメスもその後ブラジル映画などに出演し、自ら監督もしている。

現在、ローシャ監督は在日ポルトガル大使館文化担当官として滞日中である。彼は徳島で死んだポルトガルの文豪ヴェンセスラウ・デ・モラエスの生涯に興味を持ち、その映画化をすすめている。

## 新しい人生

### Mudar de Vida

〈物語〉 オパールの貧しい漁村アラドロ。打ち寄せる荒波は家をのみ漁民たちをさらっていく。しかし彼らは今日も忍耐強く働いていく。男たちは荒々しい海で鰯船をあやつり、女たちは砂を運びながら彼らの帰りを待ちわびる。

このオパールの海岸に、アンゴラの植民地戦争に行ったまま行方の知れなかったアデーリーノが何年かぶりて帰ってきた。兵役が終つたあとアメリカで働いていた彼は、かつての婚約者ジュリアに逢いたい一心で、荒れ果てた故郷に帰ってきたのだ。ジュリアは既にアデーリーノの兄レイムンドと結婚し、二人の子供がいた。しかも彼女は疲労から長く心臓を患っていた。

翌朝から、アデーリーノは海へ出て、仲間たちと鰯船を漕ぎ、再び海で生きようとする。祭りの夜、海辺の男女は日中の疲れも忘れて歌い踊る。その中にはアデーリーノ、ジュリアが、またレイムンドがいた。

懸命に海にしがみつき、かたくなにジュリアの後を追うアデーリーノ。しかし戦争で背中に傷を負っているアデーリーノには、苛酷な海の仕事をとても無理だった。塩を運ぶ仕事を見つけた彼は、ジュリアへの思いを断ち切るように家を出ていく。

ある日彼が教会の片隅で寝ていると若い女が献金を盗みにきた。それはアルベルチナという、世間の噂を気にせず自由に生きる女だった。アデーリーノは自分の思うとおりに生きる彼女にいつか惹かれていた。

そんな時、ジュリアが心臓発作をおこし、容態が急に悪化した。彼女のために、夫は漸く新開地に安全な家を手に入れたというのに。再び荒れる海、波が全てをさらっていく。しかしアデーリーノはそうした打撃に正面から立ち向かうと決心する。

アデーリーノとアルベルチナには、貧しいが、二人で生きる、新しい人生が待っている。

〈上映時間 1時間34分〉

#### 〈スタッフ〉

製作……アントニオ・クニャ・テレサ  
監督・脚本……パウロ・ローシャ  
撮影……エルソ・ローク  
音楽……カルロス・パレーダス

#### 〈キャスト〉

アデーリーノ……ジェラルド・デル・レイ  
ジュリア……マリア・パローゾ  
アルベルチナ……イザベル・ルート



## 青い年

### Os Verdes Anos

〈物語〉 ポルトガルの美しい首都リスボン。そのリスボンに住むアフォンソのもとに靴職人見習いに田舎から甥のジュリオがやってきた。ジュリオは19才、妹が病気で母に送金をしなくてはならない。

その夜、街を散歩するジュリオはある富裕な家の女中、美しいイルダと知り合う。

その後、度々、イルダは店に女主人の靴の修善に訪れる。ジュリオは日曜日ごとにイルダに会うようになり、ほのかな思いを抱くようになる。

ある日曜日、アフォンソは二人をリスボン見物につれていく。帰ったイルダは二人の仲を心配する女主人に、ジュリオに好意を持っていると言う。

ある日、ジュリオはイルダをたずねた。イルダは留守中の女主人の衣装を次々に着てみせる。美しいイルダにジュリオは魅せられる。二人はダンスに行くが、うまく踊れないことを恥じてジュリオが頭が痛いと言ふと、イルダは他の男に誘われるまま一緒に踊った。ジュリオはイルダに夢中だが、イルダはジュリオほど真剣ではなかった。

ある夜、アフォンソに酒場に誘われたジュリオは、彼女とうまくいかないいらだちをアフォンソにつける。

次の日曜日、約束の時間にこないジュリオを探してイルダは、アフォンソのところへやってきた。アフォンソのところには色々な女が出入りしていたが、イルダは泊った女が忘れていったセーターをアフォンソにもらう。

イルダは丘でジュリオに会うが、今ではおじを嫌っているジュリオはイルダがセーターをもらったことをなじる。

次の日曜日、ジュリオはイルダに結婚をせまるが、イルダにはその気はない。イルダが同郷の友だちと去っていった夜の公園にジュリオは、ただ一人残り残された。

その夜、ジュリオは「別れを言いにきた」とイルダをたずねるが……。

〈上映時間 1時間26分〉

#### 〈スタッフ〉

製作……アントニオ・クニャ・テレサ  
監督・脚本……パウロ・ローシャ  
撮影……ルーク・ミロ  
音楽……カルロス・パレーダス

#### 〈キャスト〉

ジュリオ……ルイ・ゴメス  
イルダ……イザベル・ルート  
アフォンソ……パウロ・レナート

